# まち ひと しごと

Vol.27
北海道倶知安農業高等学校
教諭　宮本　恭子　さん

## 地域と深く関わりながらともに成長できる高校に

農高のカフェ『Aggie's（アギーズ）』。倶知安農業高校の敷地内、以前は食品加工室として使われていたその場所で、同校教諭の宮本恭子さんは作業服姿で私たちを迎えてくれた。

宮本さんは京都府に生まれ育ち、地元の農業高校へ進学、そこで初めて牛に触れ、その楽しさを知ると同時に、動物について学ぶことへの興味を持った。

「動物と触れ合うことを始め、自分が高校の3年間で得た経験を、今度は自分が子どもたちに伝えたいと考え、将来は農業高校の先生になろうと決意しました」

農業教科の教員となるため、大学進学を決めた彼女は、北海道にある農業系の大学へ入学し、そこで教員免許を取得した。

大学卒業後3年間は、赤井川村にある牧場経営を行う民間企業に勤め、その後、教員採用試験に合格した彼女は日高管内静内農業高校での6年間を経て、平成24年4月に倶知安農業高校へ赴任した。

「倶知安町のイメージはとにかく雪の多い町。それと羊蹄山の眺望でしたが、実際に暮らしを始めてからは、暮らしやすさはもちろんですが、多くの外国人が訪れる国際的なスキーリゾートとしての姿に驚きました」

倶知安農業高校としてはこれまで、生徒らが生産した農産物や加工品の販売を行う『農高のおみせ』や、特産品のじゃがいもを活用したポテトペーストによるスイーツの開発などを行ってきた。そして今年、これまでにない新たな取り組みとして、生産物や加工品を、生徒自らが調理し提供する手作りのカフェをオープンさせた。

「はじめは本当に何もないところからのスタートでしたが、生徒と教員が話し合い、深く関わることで、お互いの信頼関係を築きながら、場所探しをはじめ、提供可能なメニューや、接客の仕方など、さまざまなことに試行錯誤を繰り返してきました」

農高のカフェ『Aggie's（アギーズ）』は7月に初日の営業を迎えた。当初は緊張し、ぎこちない動きの生徒たちだったが、回数を重ね経験を積む中で、今では、それぞれが自分らしさを表現したり、新たな自分を発見する、成長の場所にもなっている。

「これからは、みんなでつくったこの場所を、単に飲食の空間としてでなく、生徒たちにとって、さまざまなことにチャレンジできる場所として、また、農高の取り組みを通じて町民の方々や観光客らとの交流ができる場所として、活用していければと考えています」

これまでも、これからも倶知安農業高校だからできることを強みに、地域の方々に支えられながら、生徒たちはもちろん自身も成長していきたいと宮本さんは話す。

「私は高校の3年間でたくさんのことを学び、感じることができました。生徒たちにも、農業という教科を通じ学校だけでなく、地域からも幅広く学び、多くの経験を積むことで、将来の可能性を広げてほしいと思います」

※まち ひと しごとは不定期連載です